



あけましておめでとうございます  
本年も宜しくお願い申し上げます

2011年元旦

暗雲晴れ、日本活性化の曙

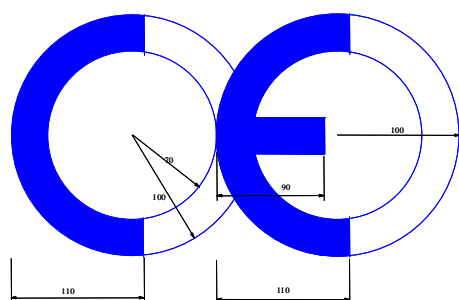
## 【築城3年落城3日】

尖閣列島での日中衝突事件以降、日本人も中国人もあまりに感情的になってキーツキーツ騒いでいるように見えます。大人の落ち着きは双方ともに感じられませんね。歴史を見てみると、大衆がこのような感情に支配されると大きな戦争に巻き込まれて行くことが多いようです。ナチズムが台頭してきた時のドイツ、日露戦争・太平洋戦争前の日本、ベトナム戦争に進んだ時や9・11後のアメリカの市民感情を思い出して下さい。

どの様なことがあり、どの様な経過をたどろうとも、日本と中国は互惠関係を構築しともに発展して行かねば、将来、成り立たないと思われれます。そのように信じているから、日本の多くの企業が中国に出て行っているのですよね。

日中の大衆の持っている感情的対立、それを煽る馬鹿なマスコミ、これで今、一番困っているのは中国の親日派の人々です。我々はこの20年来、中国に親日派の人々を増やすためにどれほどの努力をしてきたでしょうか。その成果が一朝にして壊れる可能性があります。マスコミも大学の人々も、この事についてほとんど触れないため、あえてここに一言を弄します。いまこそ、中国の親日派の人々を守ることをしなければ、日本は将来にわたり大損をするでしょう。これは尖閣列島の問題とは無関係にです。中国の友達を大事にしましょう。そして、もっと冷静に多面的長期的にものごとを見ましょうや。

京都大学とつながりのある中国の知識階層の人々と談話をして  
久保愛三（昭和41年卒（財）応用科学研究所）



## CE マーキングについて

庵 文隆（41年修士卒業）

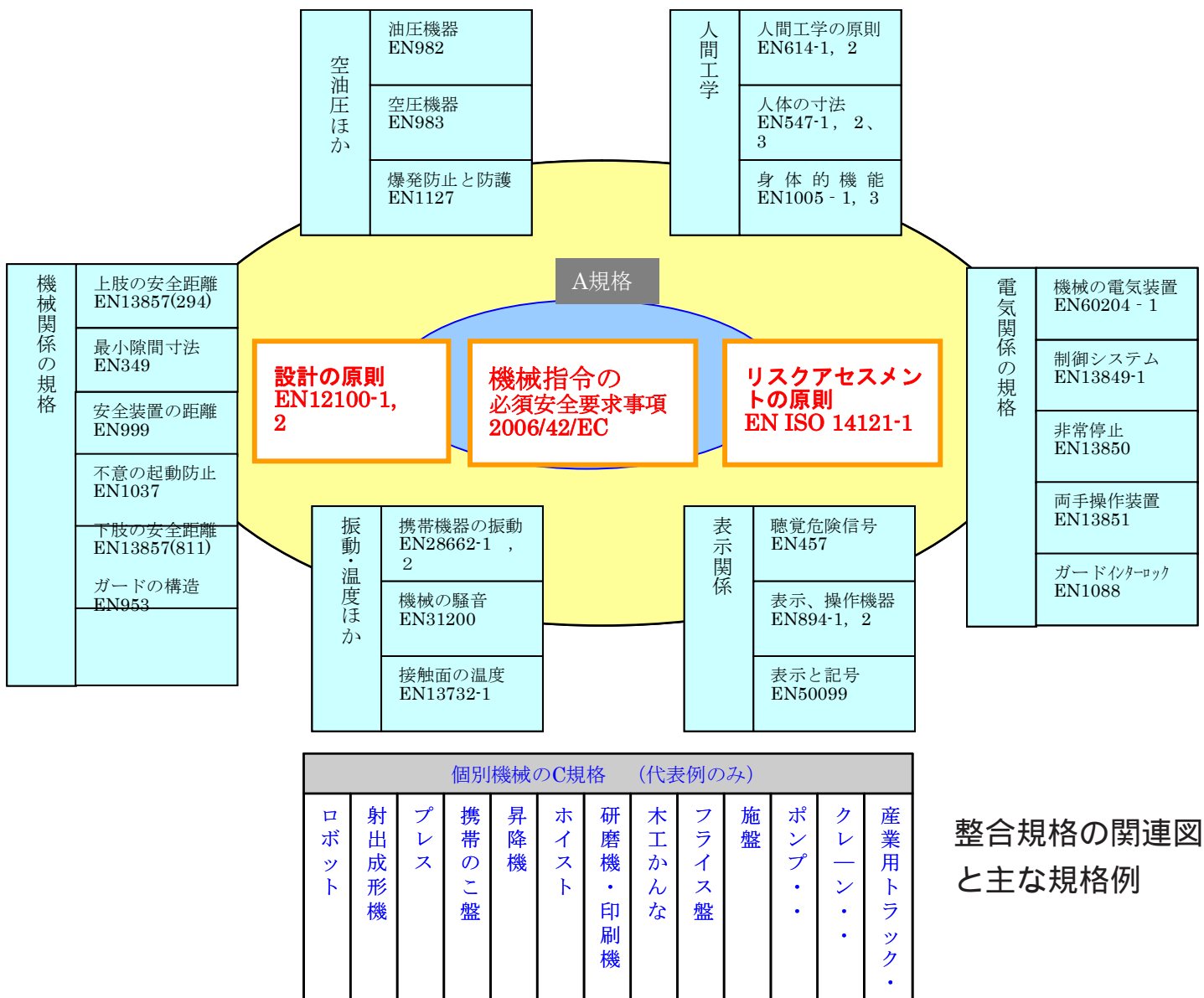
CE マーキングとは、二十数年前にEUで「New approach 政策」として始まった、製品の設計・製造に当たって、健康と安全についての必須要求事項を定めた法体系である。そもそもの目的は、EUとして統合を始めたものの、各国の安全基準が違うため物流が滞り、当時の日本(バブル崩壊前)や米国との競争に太刀打ち出来ないために、加盟国の安全基準を統一してEU法令とし、競争力を高めようとした。同時に外部からEU市場に上市されるものについても、全てこの法律に従う事を要求している。違反すれば、罰金や刑事罰まで規定されている。

一方、日本では平成12年6月に、厚生労働省から「機械の包括的な安全基準に関する指針」が出されている。内容はCEマーキングの内容を踏襲しているが、努力義務(EUでは法律)のため、国内では徹底していない。そのためか、CEマーキングの思想・原則に従って設計・製造しておれば防げたであろう、重大災害が後を絶たない(例えば、六本木ヒルズの回転ドア事故、湯沸かし器の事故、ジェットコースターの車軸

折損事故、プールの吸込み口での事故など)。 今やGlobal Standardと言っても良く、CEマーキングに関する整合規格(EN規格)もかなりJIS化されてきており、日本からも多くの製品が、CEマーキング対応してEU市場に出荷されている。

京機会のメンバーは製造業に關与されておられる方が多いと思いますので、今一度その概要について記したい。 欧州市場への輸出に当たって、何がしかの参考になれば幸いである。 また、ご質問などありましたらメールを下さい。

(E-mail : iori-f@ka3.so-net.ne.jp)



整合規格の関連図と主な規格例

## CEマーキングの概要

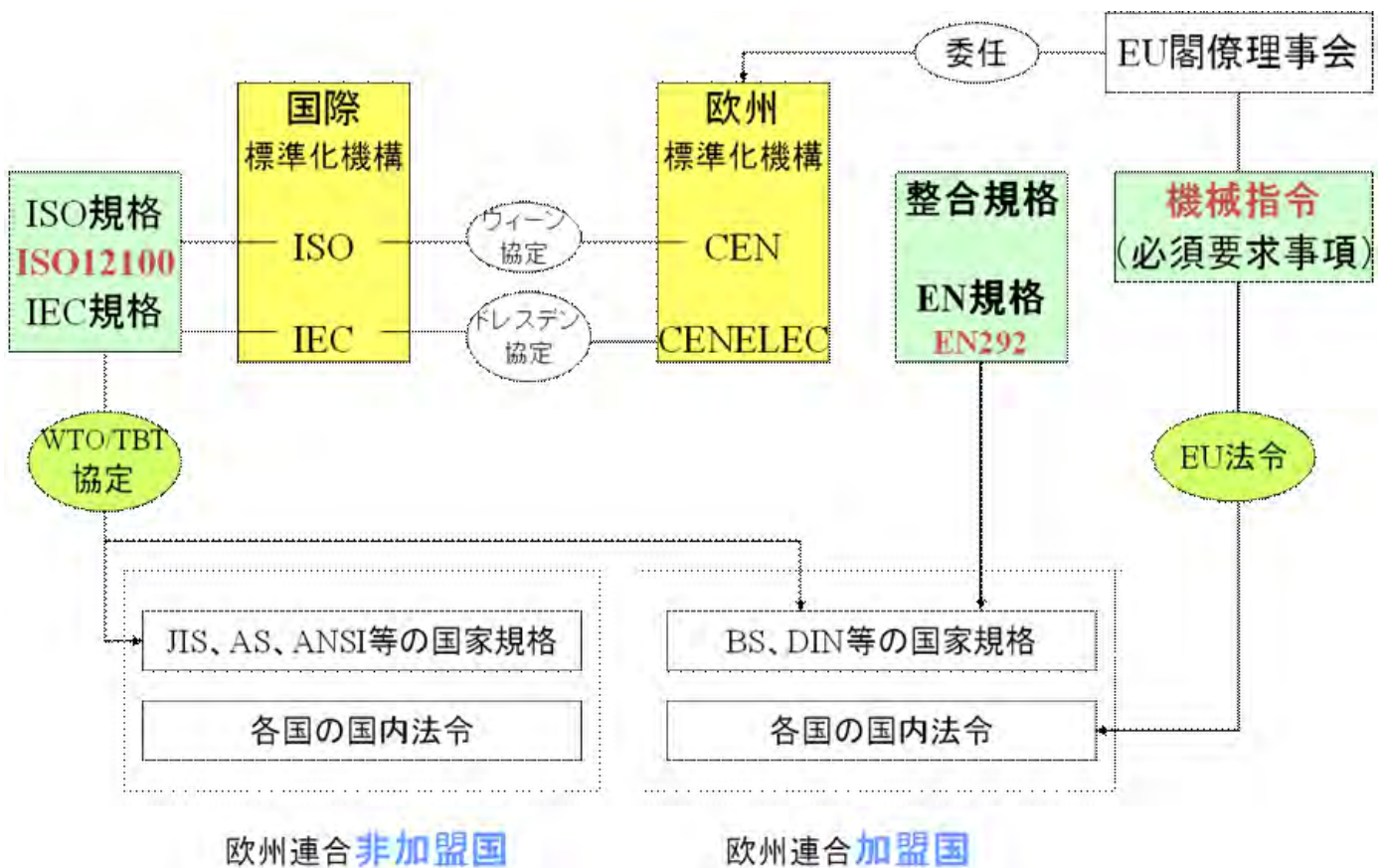
### 1. CEマーキングとは

- ・EU域内で流通させる製品に対して、その使用者の健康及び安全を保護する事を目的とする
- ・EU域内におけるその製品の自由流通を確保する

- ・基本的には製造業社が安全の責任を負う      メーカーと使用者の責任範囲の考え方がある

## 2. 基本理念

- ・製造業者自らが対応し、自らが判断を下す「自己宣言」の世界である      検査官はいない
- ・誰に対しての宣言か？      使用者(購入者)に対してではなく、輸出先の国に対して宣言する  
安全対策については、「購入者が不要と言った」の言い訳は通用しない



機械指令を例に、指令と欧州規格、国際規格、国家規格などの関連

(コメント)

- ・CEマーキングに関する指令は、EU閣僚理事会でEU法令として決定される
- ・加盟国は、無条件に国内法に取り入れる(それまでの関連国内法は廃棄)
- ・指令へ適合させる手段として、「欧州標準化機構」に規格化(EN規格)を委任する
- ・加盟国は、EN規格を国内規格として採用する義務を負う
- ・協定により、必要に応じてEN規格は、ISO規格となる(逆方向もある)
- ・非加盟国は、WTO協定により EN規格 ISO規格 JIS規格
- ・日本の場合は、機械指令の付属書で要求している「必須安全要求事項」を採用して、法律ではなく努力義務として指針が出されている

(つづく)

【連載】

## 5つの向かい風を超えて (その3)

間瀬俊明\* (昭42年卒 デジタルプロセス(株))

### '高度な技能'を活かす時代から'IT'力の時代へ

日本人は職人が好きな国家です。昔から偏屈で仕事一筋、こだわりを持って物を作るが金には関心が薄いというのがその人物像でした。高度成長期以降、量産品の製作においても、工業製品というより工芸品を作るくらいの職人氣質が、設計・製造・保守サービスのあらゆるプロセスにプラスに働き、高い品質を実現し日本経済を支えてきました。



<http://www.sanuki-ie.com/gallely-miyadaiku02.htm>

しかしグローバル化の進展でこの強みが徐々に怪しくなっていました。特に80年代の大きな成功体験とその過信により、グローバルマーケットに適した品質と価格に対する適切な判断力を失ってしまいました。高度な技能、即ち暗黙知を強みとしてきたことが却って阻害要因となってしまったのです。

ソフトウェアは人工的なルールに基づいた目に見えない概念世界の構造物で全て論理に従って作られます。しかもその論理は自然科学には立脚しないのです。論理として組み立て形式知化し、それをソフト化すれば世界各国で同じ情報や仕組みで活動できます。多民族、多国籍国家が多い欧米は、もともと形式知化が進んでおり、ITを駆使することで更なる効率化を容易に実現することができました。特にインターネットに代表されるネットワーク技術は、従来型のITとは全く次元が異なる威力を発揮し、高い技能と高効率を誇った日本的生産方式の優位性を奪っていきました。

そのうえITの活用にとってはあまり好ましくない、「お客様は神様です」といった風土、言い換えれば、お客様企業の個別の仕様要求に対し、ベンダーが一生懸命に応えるビジネススタイルは、日本独自のシステムインテグレーション(SI)型のIT産業を生み出しました。しかしそうして作られた製品は世界に通用しないだけでなく、システム開発の効率が悪い個別一品生産の世界を作り上げる結果となりました。日本のIT産業がグローバル化できない大きな要因の一つはここにあります。

### 'すり合わせ'型から'モジュール'型へ

すり合わせについては既に言い尽くされた感があります。ただ誤解をされやすい点について一つだけ触れておきたいと思います。すり合わせは、しばしば製造の現場で行っているように受け取られています。量産品を作りながらすり合わせたり手直ししたりするのは却って手間がかかり弱みになってしまいます。すり合わせは設計段階で発揮されて初めて強みとなります。つまり設計段階で後工程の要件や使い方を可能な限り盛り込んでおこうとする考え方や仕事のやり方がすり合わせの本当の意味です。

このような正しい意味においてのすり合わせの強みは、自動車の場合、設計段階で車全体を一つのモジュールと捉え、後工程やマーケットの要求を予め取り込み、究極のインテグレーションを実現することで発揮されました。最も複雑な車でさえ一つのモジュールとして捉えられたわけですから、その他の工業製品は同様の思想や仕事の進め方は容易でした。しかし1990年以降、新たなグローバル化とともにモジュール全盛の時代へと移っていきました。90年代は日本にとって失われた時代であるとともに、米国の復活とベンチャーの隆盛をもたらした時代でもありました。

モジュールといえば今から40年以上も前の1960年代に発売されたIBM/360 OSは、モジュール型製品として、ほぼ完璧といってよいほどの素晴らしい出来でした。私も前号で触れた「お手本のない時代」の小文で、「30年以上も前、このOSを知ることになり、その独創性やスケールの大きさに圧倒され感動を覚えた。このようなことを考える国に近代戦で勝てる筈はなかったとの思いを強くした」と記しました。今もその思いにかわりはありません。OSに限らず複雑化する製品を単純化し、開発プロセスを効率化するためにモジュール化はキーとなる概念です。モジュール化してインターフェース(I/F)で繋がればモジュール内の自由度はむしろ高められます。例えば自動車産業では、新しいグローバル化に対応するため、車をコックピット、フロントエンドやドアといったモジュールに纏め、その間をI/Fを決めて繋ぐという設計に変える取り組みを行いました。このモジュール設計と並行して、生産工程と調達構造のモジュール化も合わせて進められました。すり合わせ型の最先端を行った自動車産業が、アンチテーゼともいえるモジュール化にいち早く取り組んだのは、新しいグローバル化の意味するところがよく理解されていたためではないかと思います。

概して日本のマーケットでは、高品質へのこだわりから徹底的にすり合わせて作られたインテグラル型の製品が好まれてきました。そのため内需に注力した産業や企業は後手の対応にならざるをえませんでした。

(つづく)

1966年 機械科修士卒 平 忠明

## 私が見た中国の現状

### 「中国の自治区」

中国には計5つの自治区があるが、すべて中国本土の周辺地域に位置し、北部にチベット、新疆ウイグル、内モンゴルとそれに隣接する寧夏・回族自治区がある。南部には、ベトナム国境に隣接して広西壮族自治区があり、計5つの自治区。ご承知のように、北部のチベット、新疆ウイグル自治区は政情不安定であるが、内モンゴル、寧夏・回族自治区の政情は安定しているようである。南部の広西壮族自治区は古来から極めて穏健な部族とのことで、壮族は8,000万人と最大の人口を擁しているが、政情は極めて安定しているとのこと。

今回旅をした新疆ウイグル自治区は、面積は最も広いが、人口は約3,000万人とのことであった。また、中国最後の王朝：満州の地において清王朝を設立し、その後260年間中国全土の漢民族を支配した満州族も、同じく約3,000万人とのこと。ちなみに、中国の歴史上、中華民族という用語は、孫文が民族団結を鼓舞して使用したもので、中国共産党が革命遂行のためにそれを踏襲・利用したものである。また、中国の行政府の単位は順に、省・自治区 市 県 郷 村である。



**コルラ**（中国語：庫尔勒）：古来よりシルクロードのオアシス都市として栄えたが、近年はタリム油田の開発基地とし発展している。人口45万のうち漢族が約70%を占める。市名はウイグル語で「眺め」を意味する。香梨を盛産するので、梨城の名もある。

**歴史**：古代西域36国の一である渠犁国で、漢代には西域都護府に属した。北魏時代には柳驢城と呼ばれ、その後突厥の支配下に入ったが648年唐に占領され焉耆都督府の属地となった。その後しばしば吐蕃王朝に占領され840年ウイグルが西遷して、この地に定住した。さらに西遼、チャガタイ・ハン国、ジュンガル王国などに属し、1758年に清朝の新疆となった。



**ホータン（和田）：** タリム盆地の南、チベットへと向かう崑崙山脈の北麓に位置し古代では「于てん」と称されるオアシス都市で、天山南路における要地であった。古くから白玉（ホータン玉）の産地として著名であった。仏教が盛んだったが、11世紀にカラハン朝が征服したことでイスラーム化が進んだ。1986年に「和てん」から「和田」に改称された。人口：28万。

新疆ウイグル自治地区のタリム盆地・タクラマカン砂漠で発見され、今回の旅でも、タリム油田などで多数の掘削リグが稼働しているのを目撃した。ゴビ油田は、地下4,000 m以上の掘削が必要で、不採算のため稼働していない。タリム盆地では、天然ガスの生産もおこなわれているが、石油・天然ガスともに埋蔵量は限られているようである。従って、中央政府の関心は海底油田で、特に尖閣列島、東シナ海が最重要と認識。

一方、最近にわかに注目を浴びているレアアース・メタルの場合は、現在世界産出量の90%が中国産といわれているが、そのまた90%が新疆ウイグル、チベット、内モンゴル自治区に埋蔵されているとのことで、中国政府がこれら諸民族の独立国家の阻止に全力を上げている大きな理由である。

中国政府はウイグル族に対しては、ウイグル族男子と漢族女子の結婚を奨励・支援しており、段階的にかつ長期的に漢民族による支配を強化する方針とのこと。一般ウイグル族が不満に感じているのは、かつてウイグル族が生活の場としていた地域でも、市～村の中心の要衝部から強制的に立ち退きを強いられ、その跡地を漢族が占拠し、順次、経済的にも支配を拡大・強化していく構図が繰り返されているのが、最も大きいとのことであった。

この際、中国全土の土地の所有権は国にあるため、瞬く間に移住が実行され、不便な場所に立ち退きを強いられた住民には、新しい住居が無償で提供される。従って、それを受け入れない住民は極めて稀なケースとのことである。結果としては、ウイグル族には抵抗しようにもするすべなく、時たま不満が暴発し、一種の「ガス抜き」が繰り返される構図となっている。

### 「石油とレアアース・メタルの資源戦略」

中国で最初に油田が発見されたのは内陸の敦煌近くのゴビ砂漠である。その後新



## 「少子化政策と人口推移」

中国政府は人口の急激な拡大を抑制するため、有名な1人子政策を実施している。それに違反して2人目の子供を出産した場合、罰金（1次金）として8,000元（約12万円）が科せられ、税金も増加するため、この政策の効き目は絶大である。従って、就業人口の30%を占める役人はじめ政府高官で、これに違反するものはいないが、5つの自治区及び少数民族はその対象外となっているとのこと。また、この1人子政策の弊害として、戸籍登録していない隠れ人口が少なくとも、全体の1割以上は存在するとの話で、人口の実数把握は困難な様である。

## 「水資源、旅行者にとっての物価、水・食べ物、トイレ事情」

北京市の水資源の現状について伺ったところ、上水道に対する黄河からの取水は現在皆無で、北京北部、明第13陵近くの2つのダム（北部の雪解け水を貯水）から40%弱、遠路長江（揚子江）からの取水が60%を超えていると。今回、上空飛行機から良く見えた大河：黄河は、北京市に流れ着くまでに、全て灌漑・工業用水で取水されるため、渤海湾の河口の幅はわずか100mほどと狭くなり、使用後に排出された汚染水がそのまま放出されているとのこと。今回旅をした内陸部では水不足はさらに深刻で、井戸掘削を初め、個人の取水は厳しく制限・監視されている。新疆ウイグル地区ではタリム盆地が雪解け水の地下水に恵まれているが、それでも新しい井戸は深さ30mまでは水が出ない。甘粛省の敦煌：ゴビ砂漠の入り口付近（といっても人が住んでいる近郊）の井戸では、最近では300mまで掘削しても水は確認されないと。

また、私が始めて中国に出張した南部沙市（武漢近郊）の25年前（1885年）とは異なり、街には豊富に物があふれ、中国の変貌振りには目を見張るものがあった。今回も、飲料水は今回もミネラルウォーターで全て通したが、水道水で洗った生野菜はまったく問題なく、食事の質・量共に見違えるように良くなっている。とくに、この時期の新疆ウイグルの果実も豊富でかつ美味しかった。

今回、末尾にご紹介する旅の企画者である坂本一敏氏が、中国麺研究の第一人者でもあったので、ほぼ毎日中国麺（日本のラーメンとは若干異なり、“牛肉麺”とのことで、別の皿に盛られた具をトッピングで麺にかける食べ方が最も多かった）を欠かさずに1食は賞味したが、なかなかの味であった。ただし、新疆ウイグル地区はご存知のとおり、豚肉は厳禁で、羊が大半、時折牛肉、たまに鶏肉であった。（豚肉チャーシューは北京でも一切見かけなかった）これらの麺を、彼が事前調査した古い町並みの店に、2人の現地ウイグル人運転手含め計10人が、そろそろ連れ立って人ごみを掻き分けて訪ねて行くわけであるが、ツアー旅行では経験

できない、好奇心が刺激を受ける連日であった。この牛肉麺の価格はほとんど一杯10元程度(150円)であるが、ホテル、空港などでは50元以上で、全般に物価はかなりの幅があって日本との比較は難しいが、押しなべて庶民の生活必需品は日本の1/2 ~ 1/3 程度の感覚との話であった。

また、1985年には、夏場の沙市で毎晩決まって2~3時間停電し、夜通し大汗をかかされ閉口したが、今回はそれも予告された1夜のみで、電力インフラも格段に整備が進んでいる。敦煌近くでは、現在世界一の規模と説明があった6,000基の風力発電機が設置されていたが、羽根が回転しているのは全体の1/3程度であった。トイレは全般的には改善はされているが、新疆ウイグル自治区では、下町の食堂では板で囲ったところもかなり残っている。約400kmのタクラマカン砂漠を縦断した際には、途中公衆トイレが3箇所設置されていたが、とても使用できる状況ではなかった。男女ともに、広大な砂漠で用を足すので、格段困ることは無い。さらに、下水設備は北京、上海など沿岸部以外はまったく整備されていないため、ご存知のように、辺境での局地的な浸水・土砂崩れ等の災害は日常茶飯事である。

(つづく)

## —— 京機短信への寄稿、宜しくお願ひ申し上げます ——

### 【要領】

宛先は京機会の e-mail : [jimukyoku@keikikai.jp](mailto:jimukyoku@keikikai.jp) です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。宜しくお願ひ致します。

## 野次馬話 第14話 「お互いさまじゃないの」

S43 卒 遠藤照男

妻や娘は、そのうちにグサッとやられるから止めよと言うが、相変わらず理不尽なことに文句を言う性分は治まらない。

- ・ 肘が当たったのに謝らない男
- ・ 行列に割り込んできたオヤジ
- ・ 子供が走り回って五月蠅い二階（当方は一階で床下は地面）
- ・ 駐車場の隣の車の運転者で、乗降時にドアでコツンコツンとやってくれる男（当方は右側に駐車）

この輩に注意すると、「お互いさまじゃないの！」と言ってくる。こちらは何もしていないのに、である。

この輩の特徴は、常に攻撃的で、攻撃することで防御する性格が染み付いている。責められたとき、兎に角相手を攻めようとする特徴がある。悪いこととは考えてもいなかった行為を指摘され、一瞬悪いことと気付くのだろうが、当然、万人が自分と同じことを日常やっているとしか思っていないから、そこが攻撃材料と考えテーマも悪いことをするじゃないか！との意を強く込めて、「お互いさまじゃないの。」と、攻撃姿勢をとる。「お互いさまだから。」は、些細な過ちを犯した相手が恐縮しているときに、「こちらも同じ過ちを犯していたりこれから犯す可能性がある、同じ立場にあるから、そんなに恐縮することはない。」との気持ちを伝える言葉であることが、理解出来ていない。

### 各支部 新年会のご案内

関西：<http://keikikai.jp/shibu/kansai/gyouji.html>

関東：<http://keikikai.jp/shibu/kantou/gyouji.html>

中国四国支部：[http://keikikai.jp/shibu/cyugoku\\_sikoku/gyouji.html](http://keikikai.jp/shibu/cyugoku_sikoku/gyouji.html)

#### ---- 関西 ----

平成 23 年度関西支部総会・新年会のお知らせ

開催日：平成 23 年 1 月 15 日（土）

場 所：ホテルグランヴィア大阪 <http://www.granvia-osaka.jp/guide/map.html>

開始時刻： 総会 17：00（20F 鶴寿の間）

新年会 17：45（20F 鳳凰の間）

## リカレント講演会

日時：平成23年1月15日(土) 15:00～17:00

場所：ホテルグランヴィア大阪(20F 鶴寿の間)

参加費用：無料

テーマ：自律型エアロボットの開発とその防災活動への応用

講師：中西 弘明先生(京都大学大学院 機械物理工学専攻 講師)

お申込み：京機会 HP よりお申込みください。

<http://keikikai.jp/cgi-bin/index.cgi?D219>

## --- 関東 ---

### 京機会関東支部第11回総会・新年会のご案内

日時：平成22年1月22日(土) 16時00分～19時30分 受付15時45分から

場所：日立金属 和櫃館 大会議室

[http://www.shunko.jp/fukuri/link\\_sisetu/wakyokan/wakyo\\_index.htm](http://www.shunko.jp/fukuri/link_sisetu/wakyokan/wakyo_index.htm)

【MAP】[http://www.shunko.jp/fukuri/link\\_sisetu/wakyokan/wakyo\\_map.htm](http://www.shunko.jp/fukuri/link_sisetu/wakyokan/wakyo_map.htm)

〒108-0074 東京都港区高輪4-10-56 TEL 03-3443-1717

JR品川駅下車 高輪口から徒歩10分

・第11回総会(16時00分～17時30分)

講演 「人間の友達の機械としての自動車と日本の自動車技術・産業」

両角岳彦氏・久保愛三氏

・懇親会(17時30分～19時30分)

参加申込 京機会HPでお願い致します。

<http://www.keikikai.jp/shibu/kantou/gyouji.html>

### 第20回リカレント教育講座

第二世紀記念事業会・関東支部共催

14時00分～15時45分

テーマ：急速に進化するディーゼルエンジン技術

講師：石山拓二氏(エネルギー変換科学専攻教授)

## --- 中国四国支部 ---

「見学会」及び「支部総会」、「異業種交流会」

1. 開催日時 2011年2月5日(土) 12:00～19:30

2. 見学会 見学場所：呉市海軍歴史科学館(大和ミュージアム)

<http://www.yamato-museum.com/>

12:00 JR呉駅改札口集合(各自食事は済まして集合とする)

12:15 大和ミュージアム着(JR呉駅より徒歩5分)

12:15～14:00 見学(博物館のガイド先導により館内見学)

14:00 大和ミュージアム正面に集合

14:00～15:00 貸切バス移動(呉 広島ダイヤモンドホテル)

### 3. 支部総会 & 異業種交流会

場所：広島ダイヤモンドホテル

〒733-0036 広島市西区観音新町2-4-6

電話 082-292-3161

<http://www.h-diamond-hotel.com/>

講演 超音波を用いた機能・健全性の評価（京都大学 教授 琵琶志朗）

講演 民間航空機における雷保護技術（三菱重工 技師長 神納祐一郎）

申し込み方法 京機会ホームページより、お申し込みください。

[http://keikikai.jp/shibu/cyugoku\\_sikoku/gyouji.html](http://keikikai.jp/shibu/cyugoku_sikoku/gyouji.html)



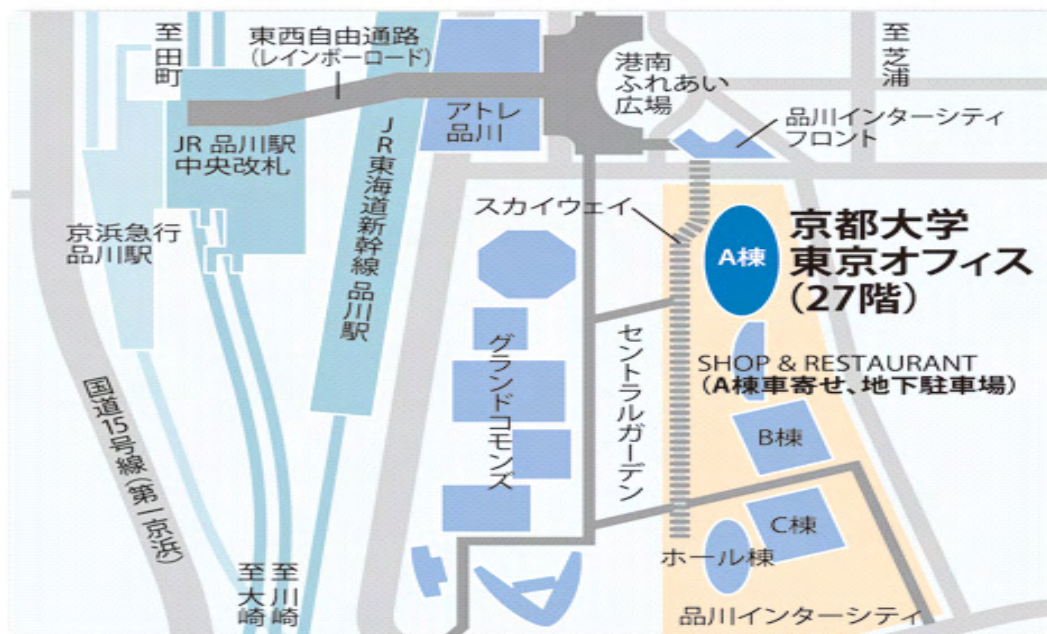
東京での卒業生の交流の場に  
京都大学東京オフィスを  
ご利用ください。

「京都大学東京オフィス」は、京都大学の東京における情報の収集及び発信の拠点として、JR品川駅から至近に位置する「品川インターシティ A 棟 27階」に設置されています。品川は新幹線に直結し、また羽田空港の国際化ともあいまって、国内はもとより、世界とも繋がる拠点ともなっています。

東京オフィスには、卒業生をはじめ、教職員、学生が無料で利用できるラウンジ、ミニラウンジ、パソコンを備えたワークスペースがあり、また、同窓会、各種セミナー、フォーラム、研究会などに利用できる会議室を3室（有料）ご用意しております。

卒業生の皆様には、同窓生との交流や母校との連携を深める場として、東京オフィスを大いにご活用頂きますようお願い申し上げます。

東京オフィススタッフ一同、卒業生の皆様のご来館を心よりお待ちしております。



## 開館日・利用時間

月曜日から土曜日までの毎日 10:00 ~ 20:00

## 休館日

日曜、祝日、年末年始（12月28日～1月3日）

創立記念日（6月18日）その他臨時休館する日

## 詳細

URL <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office>

## 所在地

京都大学東京オフィス：

〒108-6027

東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA 棟27階

## お問合せ先

TEL 03-5479-2220（開館日の10:00～19:30）

FAX 03-5479-2221

E-mail [t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp)



## 1 . 鉱業分科会・石油分科会合同分科会（第1回）配付資料

### 総合資源エネルギー調査会

議事次第 [http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai\\_goudou/001\\_hai fu.html](http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai_goudou/001_hai fu.html)  
[http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai\\_goudou/001\\_00\\_00.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai_goudou/001_00_00.pdf)

### 資料2 資源確保を巡る最近の動向

[http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai\\_goudou/001\\_02\\_01.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai_goudou/001_02_01.pdf)

[http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai\\_goudou/001\\_02\\_02.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai_goudou/001_02_02.pdf)

### 資料3 総合資源エネルギー調査会に対する諮問について

[http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai\\_goudou/001\\_03\\_00.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai_goudou/001_03_00.pdf)

### 資料4 鉱業法制の見直しについて（検討趣旨）

[http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai\\_goudou/001\\_04\\_00.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai_goudou/001_04_00.pdf)

### 資料5 我が国における資源開発を巡る現状と課題

[http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai\\_goudou/001\\_05\\_00.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai_goudou/001_05_00.pdf)

### 資料6 現行の鉱業法制と検討すべき論点

[http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai\\_goudou/001\\_06\\_00.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/kougyou/bunkakai_goudou/001_06_00.pdf)

### 関連リンク

#### 鉱業分科会・石油分科会合同分科会

[http://www.meti.go.jp/committee/gizi\\_8/11.html#bunkakai\\_goudou](http://www.meti.go.jp/committee/gizi_8/11.html#bunkakai_goudou)

#### 鉱業分科会

[http://www.meti.go.jp/committee/gizi\\_8/11.html#meti0002319](http://www.meti.go.jp/committee/gizi_8/11.html#meti0002319)

#### 石油分科会

[http://www.meti.go.jp/committee/gizi\\_8/12.html#meti0002655](http://www.meti.go.jp/committee/gizi_8/12.html#meti0002655)

## 2 . レアメタル資源確保の現状と課題

立法と調査 311号（平成22年12月1日）参議院 調査室

[http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou\\_chousa/new.html](http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/new.html)

[http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou\\_chousa/backnumber/2010pdf/20101201043.pdf](http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2010pdf/20101201043.pdf)

## 3 . 外国為替市場介入をめぐる諸課題

参議院 企画調整室

～防衛ライン、不胎化・非不胎化政策、外為特会積立金～

[http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai\\_prism/backnumber/h22pdf/20108501.pdf](http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai_prism/backnumber/h22pdf/20108501.pdf)

2010年9月15日、政府は、2004年3月16日以来ほぼ6年半ぶりに外国為替市場介入(為替介入)を行った1。最近の為替相場を振り返れば、2007年夏の米欧のサブプライムローン問題の発生以降、対米ドル・対ユーロの円レートは振れを伴いながらも基調的には円高方向へ進んできた。そして、足下の2010年6月頃からは

円高・株安が急速に進行し、1995年の超円高期以来の水準2をうかがう勢いとなり、9月15日には一時1ドル=83円を超えるという市場状況の中で前述の為替介入となった。この介入によって、円高の急速な進行に一時的に歯止めはかかったものの、その後も円高傾向が継続している。

ところで、こうした政府の為替介入に関してはいくつか論点が挙げられる。公的介入の是非、目的、効果、タイミングなど為替介入政策に関するもの、為替介入に伴う市場への供給資金の取扱いなど金融政策に関するもの、為替介入資金を經理する外国為替資金特別会計（外為特会）の会計処理（積立金の取扱いなど）に関するものなどがある。

本稿では、これらのうち、(1)過去の為替介入はどのような為替水準で行われたのか（為替防衛ライン）(2)為替介入に伴って生じた資金供給による金融政策への影響（いわゆる「不胎化・非不胎化政策」）(3)外為特会の積立金の3つのテーマについてみる。

#### 4. 事業再生を考える～過去の事例から～

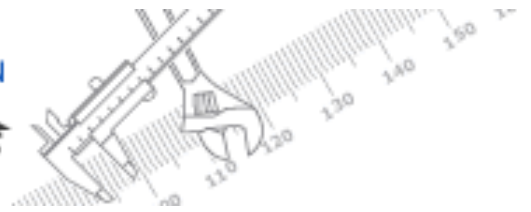
参議院 第二特別調査室

[http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai\\_prism/backnumber/h22pdf/20108502.pdf](http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai_prism/backnumber/h22pdf/20108502.pdf)

世界を震撼させた2008年の金融危機（リーマンショック）の影響は一段落したものの、経済の先行きには引き続き不透明感がある。我が国経済をみても、個々の企業の動向には依然としてバラツキがあるのが実情であり、経営が悪化したり、倒産したりする企業も後を絶たない。本年1月には日本航空が会社更生法の適用を申請したが（同時に企業再生支援機構が支援を決定）、負債総額は2兆3,200億円に達し、事業会社としては戦後最大の経営破綻となった。企業が窮境に陥る「ストーリー」はさまざまであり、同じ事例は二つとないといえるが、他方で、窮境に至る過程には一定の共通点がみられるのも事実であり、ある程度の類型化も可能であるように思われる。そしてこれにより、窮境に陥らないための予防策や、事業再生の在り方などについての示唆も得られるのではないかと考えられる。

このような観点から、本稿では、2003年から07年まで活動した産業再生機構（以下「機構」）が支援した41の事例を踏まえつつ、企業が窮境に陥る要因にはどのようなものがあるか、予防策や対応策についてはどのように考えればよいか、事業再生はどのようにおこなわれるか、またおこなわれるべきか、企業価値はどのように向上させればよいのかなどについて考えてみたい。また、具体的なケーススタディとして、カネボウとダイエーを取り上げ、機構の公表資料をはじめとする公開情報に基づき、再生のプロセスをフォローしてみたい。



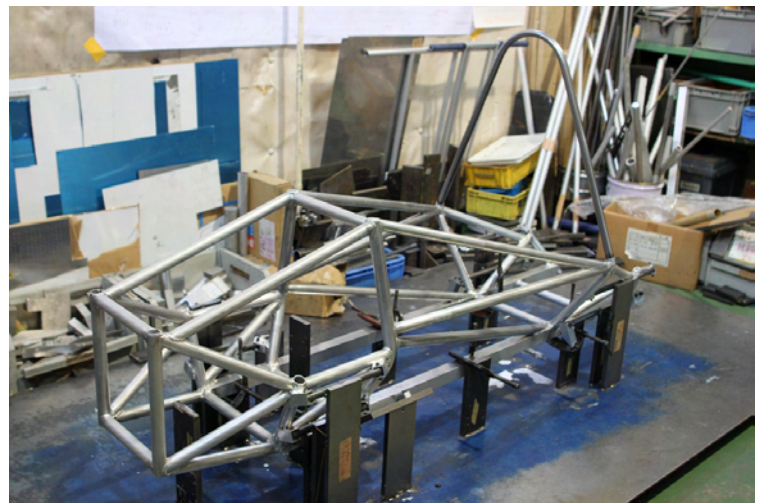


## 報告

新年明けましておめでとうございます。 昨年は京機会の皆様には多大なるご支援・ご声援を頂きました。 改めまして厚く御礼申し上げます。 本年も引き続き、私たち京都大学フォーミュラプロジェクトKARTをどうぞよろしくお願い致します。

### 車両製作状況

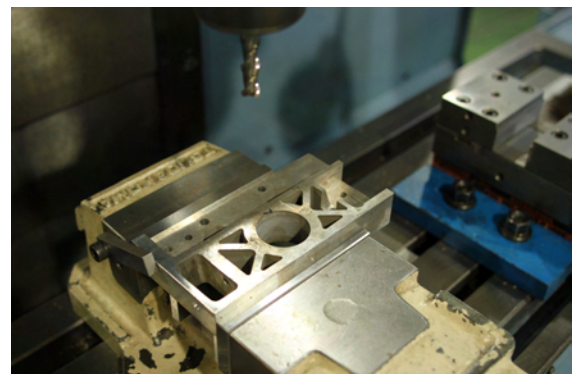
当初の予定と比べ多少の遅れはありますが、着々と車両製作が進捗しております。 フレームには足回り部品のブラケット<sup>1</sup>が続々と溶接されていき、それと並行してナックル<sup>2</sup>の削り出しや、サスペンションアーム<sup>3</sup>の製作が進行しております。



ブラケットの位置出しと溶接は、精度が非常に要求される作業で、車両製作全体を通して、最も根気を必要とする工程です。 しかしながら今年度は、昨年十分に経験を積んだメンバーが作業に当たっており、例年に比べスムーズに作業が進んでおります。

また、ナックルは、私たちが加工する部品の中でも最も複雑な形状をしており、その加工には細心の注意を要します。 綿密に考え抜かれた加工手順を慎重に踏んでいくことで、無機質な「材料」だったアルミブロックが、次第に機能を有した「部品」へと変貌していきます。

このように、現在は足回り部品の製作が佳境に入っており、早期シェイクダウンを達成するにあたって、ひとつの正念場を迎えております。 ここを乗り越えることが出来れば、今月中ごろには、足回り部品の加工・組み付けが完了し、車体が四輪で自立する姿を皆様にご覧に入れることが出来るものと思います。



- 1 パーツ同士を結合するための仲介役となる部品．KART内ではフレームに溶接された，フレームと足回り部品を繋ぐための支持部品を指すことが多い．
- 2 ホイールを支持する部品．
- 3 フレームとアップライトとを繋ぐための部品で，パイプをAの字に溶接したもの．